

だれ一人とり残される ことのない社会

競争や自助努力が行き詰るなか
困難や弱さを抱える人たちを包摂し、
多様な人々がよこにつながることで
地域や社会を再創造する活動が
始まっています。
参加と対話による
民主主義と社会的包摂に向けて、
共に語り合いましょ！



共催... 賀川豊彦シンポジウム実行委員会、賀川豊彦記念講座委員会、明治学院大学キリスト教研究所賀川豊彦プロジェクト
協賛... (一社)日本協同組合連携機構JCA、日本協同組合学会、日本キリスト教社会福祉学会、賀川豊彦学会
(株)朝日エル、(株)キリスト新聞社、東京基督教大学公共福祉研究センター

[日時] 2019年11月9日[土] 13:30 - 16:30

[会場] 明治学院大学 白金校舎2号館2301教室
東京都港区白金台1-2-37 <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>

基調
講演

村木厚子

津田塾大学客員教授、日本生活協同組合連合会理事
日本農福連携協会副会長理事
若草プロジェクト呼びかけ人、元厚生労働事務次官

テーマ
講演

濱田健司

JA共済総合研究所主任研究員

コメンテーター

逢見直人

日本労働組合総連合会会長代行

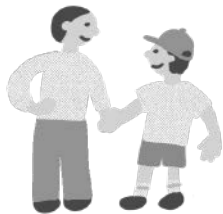
稲垣久和

東京基督教大学特別教授、同大学公共福祉研究センター長

コーディネーター

伊丹謙太郎

千葉大学特任助教



だれ一人とり残されることのない社会



格差の拡大、超高齢化など、社会のひずみのなかで、一人では解決できない困難を抱える人々が増えています。

自立や自助努力だけによる社会が行き詰りをみせるなか、人々が横につながり協同してつくる社会への転換が求められています。

国連持続可能な開発サミットでは2015年、「誰一人取り残さない」をモットーにSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、日本でも取り組みが進められています。

「誰一人取り残さない」活動を先駆的・包括的に展開した社会事業家・賀川豊彦（1888-1960）の思想と実践を現代的に継承することを願って企画された本シンポジウムでは、第5回の今年、SDGsと賀川スピリッツを取り上げます。SDGsが掲げる17目標について日本の達成度（2018年）は先進国中15位、なかでもジェンダー平等、責任ある生産・消費生活、パートナーシップなどの領域は極めて不十分と評価されていますが、私たちは日本社会の課題（弱点）を知り、その解決に取り組むことが求められています。

そのようななか日本でも、賀川スピリッツやSDGsの目標を推し進める市民による活動が始まっています。困難を抱える若い女性たちを支援する若草プロジェクト、農と福祉をつなぐことで地域や社会の再創造をめざす農福連携、「社会正義の拡大、ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の推進」をめざすILO（国際労働機関）など労働組合の活動。今回のシンポジウムでは、こうした活動を入口に、私たちがめざす新しい社会のあり方と、そのために取り組むべき課題を話し合います。

農福連携の農場での白菜の収穫風景
（写真提供：埼玉福興株式会社）



基調講演



村木厚子（むらき・あつこ）

高知大学卒業後、1978年、労働省（現・厚生労働省）に入省。女性や障がい者政策などを担当。厚生労働事務次官を経て2015年に退官。現在、津田塾大学総合政策学部客員教授、困難を抱える若い女性を支える「若草プロジェクト」呼びかけ人、累犯障がい者を支援する「共生社会を創る愛の基金」顧問、日本生活協同組合連合会理事、日本農福連携協会副会長理事。著書に『日本型組織の病を考える』（角川新書）『あきらめない：働く女性に贈る愛と勇気のメッセージ』（日経ビジネス人文庫）ほかがある。

テーマ講演



濱田健司（はまだ・けんじ）

一般社団法人JA共済総合研究所主任研究員。東京農業大学大学院修了。農業経済学博士。一般社団法人日本農福連携協会顧問（旧全国農福連携推進協議会会長）、農林水産省農林水産政策研究所客員研究員。「農」の機能発揮支援アドバイザー、障がい者の就農に関する調査研究とそれを広めるための意識啓発・助言・講演などの活動を行う。人間と自然の多様性、そして「農」の福祉力や自然農を含めた農福連携に注目し、地域や人間関係まで包括した共生・共創の地域社会「里マチ」および「農生業（のうせいぎょう）」を提唱している。著書に『農の福祉力で地域が輝く』（創森社）『農福連携の「里マチ」づくり』（鹿島出版会）などがある。

コメンテーター



逢見直人（おうみ・なおと）

日本労働組合総連合会（連合）会長代行。1976年一橋大学卒業後、ゼンセン同盟入局。2012年UAゼンセン会長、2015年連合事務局長を経て、2017年より現職。学生時代より社会労働問題に関心を持ち、労働組合運動に進む。労働運動の歴史を学ぶなかで、賀川豊彦の生き方に強い共感を覚える。ゼンセン同盟では、大型共済事業の設立、社会貢献活動、震災ボランティア等を実践。労働組合組織の強みを社会活動に生かす活動を行っている。

コーディネーター



伊丹謙太郎（いたみ・けんたろう）

千葉大学特任助教。徳島県生まれ。東京工業大学大学院社会理工学研究科社会数理解講座博士課程単位取得退学。千葉大学医学部等を経て、現在、同大人文社会系教育研究機構所属。東京大学PEAK国際環境学非常勤講師。専門は意思決定科学および社会倫理学（社会学）。賀川豊彦と同労者たちの事業を中心に協同組合思想史の研究を進めている。

第3回、第4回賀川豊彦シンポジウムの模様はYoutubeでご覧いただくことができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=SFuTdrVKrN8>

<https://www.youtube.com/watch?v=cS01x-Qrrf0>